

〔開会あいさつ〕

教育発達科学研究科長 村 上 隆

皆さま、おはようございます。

名古屋大学国際フォーラムの一つのサテライトフォーラムである「中等教育改革の国際比較—中学・高校の学力とカリキュラムを考える—」を開催するに当たりまして、主催いたします名古屋大学大学院教育発達科学研究科を代表して、一言ご挨拶申し上げます。

最初に、このフォーラムでご講演いただきます6人の先生方、韓国の権教授、中国の王教授、タイのバイトゥーン教授、カナダのベック教授、アメリカ合衆国のシマハラ名誉教授、日本の荻谷教授の先生方に、心からお礼申し上げます。また、多忙な日程の中、来賓としてご出席いただきました名古屋大学・伊藤正之副総長にも深い感謝の意を表したいと思います。さらに、こうしたフォーラムを企画し、運営してもらっている今津教授をはじめとする教育発達科学研究科、それから附属学校の同僚の皆さんにもお礼を申し上げます。

本日のフォーラムが成功裏に行われますように、ここにおいでになる参加者の方々のご協力を心からお願い申し上げます。

私は、本日のフォーラムにおける6人の先生方のご講演とフロアの方々も参加した討論のことを考えますと、今から興奮を覚える次第です。皆様もご存知の通り、日本の中等教育には多くの問題、論点が存在しております。個人の十分な発達と社会の健全な発展という二つの面から、中等教育をどのように改革していくかということについて様々な意見の対立があります。6人の先生方のご講演の要約を拝読いたしまして、この環太平洋の六つの国々が、いくつかの問題を共有しているとともに、それぞれ固有の異なった問題を持っている、そして、異なった解決の道を模索しているということを知りました。ご講演と討論を通じて我々が自分たちの問題に対して新たな視点を発見したり、改革に対する対立を解決に導く新たな方策を見出したりすることも十分にありうると考えます。一方で、中等教育の問題は大きく、かつ深いものでありますから、この問題を議論するための国際的なネットワークを形成することは極めて重要でございます。この小さなフォーラムが、そうした大きなネットワーク形成のための一歩になるとすれば嬉しく思います。御清聴ありがとうございました。